

## 11 自由研究発表申し込みについて（締切：7月26日金曜日）

※大会参加登録とは、締切が異なりますので、ご注意願います。

- (1) 自由研究発表の申し込みは、学会ホームページの第63回全国研究大会（山形大会）をご確認の上、リンクした業者ホームページにある「自由研究発表申し込み」でお願いします。  
なお、プロジェクトは発表会場に準備しますが、PCは各自でお持ちください。発表申し込みは、業者ホームページからを原則としますが、ホームページをご覧になれない方は、大会事務局までお問い合わせください。  
自由研究発表を申し込む時の「発表題目」は、『大会論文集』の原稿作成時に変更がないようお願いします。連名での報告の場合は、代表一人が「自由研究発表」を申し込み、連名発表者は、備考欄に、氏名、所属を記入ください。  
申し込み後、業者ホームページへの登録内容を確認するメールが、自動送信されます。
- (2) 発表申し込み締め切りは、2013年7月26日（金曜日）です。
- (3) 『大会論文集』の原稿締切は、2013年8月23日（金曜日）ですので、ご準備ください。なお『大会論文集』の様式は、これまでと変わりません。執筆要項および提出方法については、学会ホームページに、5月連休あけに掲載いたします。
- (4) 自由研究発表の発表時間は、発表20分、質疑応答10分（合計30分）です。自由研究発表に関する詳細（発表時間や発表会場）は大会プログラム（2次案内）にて掲載いたします。
- (5) 大会プログラム（2次案内）は、郵送するとともに、9月中旬に学会ホームページに掲載する予定です。
- (6) 自由研究発表に関する連絡は、すべて業者ホームページに登録されたメールアドレスにて行いますので、間違いのないようご注意ください。
- (7) 自由研究発表に関する問い合わせは、大会事務局あてにメールでお願いします。

## 12 会期中の昼食

10月26日土曜日は、大学生協の食堂が営業しています（11:30～13:30）。ただし、席数が少なく、混雑が予想されます。お弁当は、両日ともお茶つきで800円です。正門付近にはコンビニおよびいくつかの飲食店があります。

## 13 会場へのアクセス



- JR山形駅前から県庁行きで山形南高校前（山大入口）下車、そこから徒歩8分。
- JR仙台駅前から高速バス（約60分）で山形南高校前（山大入口）下車、そこから徒歩8分。
- JR山形駅前から徒歩（約25分）

## 14 お問い合わせ

〈事前参加登録〉・〈参加費・弁当・懇親会費の振込〉

近畿日本ツーリスト東北山形支店

『日本社会科教育学会第63回全国研究大会（山形大会）』担当デスク

メールアドレス：[yamagata@or.knt-th.co.jp](mailto:yamagata@or.knt-th.co.jp)

電話番号：023-632-3211 Fax：023-625-7351

営業日：月～金 9:00-17:45 休業日：土・日・祝祭日

〈その他の事項〉については、山形大会事務局（1ページ目に記載）にご連絡ください。

# 日本社会科教育学会

## 第63回 全国研究大会（山形大会）のご案内（1次案内）

日本社会科教育学会会長 江口 勇治  
全国研究大会実行委員長 江間 史明

ご案内のように、第63回全国研究大会を山形大学で開催する運びとなりました。  
これからの社会科について様々な角度から議論される場になることを期待しております。  
多くの方々にご参加いただきますようご案内申し上げます。

**1 主催** 日本社会科教育学会 日本教育大学協会社会科部門

**2 後援** 山形県教育委員会 山形市教育委員会 天童市教育委員会 上山市教育委員会  
寒河江市教育委員会 山形県社会科研究会 山形市小学校教育研究会社会科部会  
山形市中学校教育研究会社会科部会

**3 会場** 山形大学小白川キャンパス（〒990-8560 山形市小白川町1-4-12）

**4 期日** 2013（平成25）年10月26日（土）・27日（日） ※関連行事は25日（金）

### 5 日程

	8:50	9:30	12:00	13:00	16:00	16:15	17:00	18:00	20:00
<b>第1日目 10月26日（土）</b>	受付	自由研究発表 I	昼食 評議員会	シンポジウム		総会			懇親会 ホテルキャッスル
<b>第2日目 10月27日（日）</b>	受付	自由研究発表 II	昼食	課題研究					15:30

### 6 関連行事

授業公開 10月25日（金） 会場：山形大学附属中学校

受付 13:00

山形大学附属小の授業 13:30～14:15

山形大学附属中の授業 14:35～15:25

研究協議会 15:40～17:10

●日本社会科教育学会ホームページ <http://socialstudies.jp>

大会参加登録、自由研究発表申し込み、大会に関する最新情報は、学会ホームページをご覧ください。

●日本社会科教育学会第63回全国研究大会（山形大会）事務局

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学地域教育文化学部（江間史明・高吉嬉・野口徹）

メールアドレス：[jass63yamagata@gmail.com](mailto:jass63yamagata@gmail.com) （問い合わせは、メールでお願いします）

## 7 シンポジウム

### 社会問題を学習に埋め込む授業のあり方を問う —日本の農業に焦点をあてて—

#### [趣旨説明]

農業は、食という自分たちの暮らしと、貿易という世界とのつながりの両面に密接にかかわる領域である。学習者は、自分の口にするものと、日本のありようと、世界とのつながりを考えざるをえない。だが、これから日本の農業のビジョンは、錯綜している。何が問題かを見定め、議論をていねいにかみあわせていくことは、容易ではない。

日本の農業は、戦後日本の経済成長に適応する形で展開してきた。大多数の水田農家は、1ヘクタール前後の規模で農業にとりくみ、十分でない農業の所得を、農業以外の仕事で補う兼業農家の道を選択してきた。こうした兼業農家は、今、担い手が高齢化し、耕作放棄地が日本国内に増加しつつある。他方で、野菜や果樹、畜産物のように伸びてきた農業がある。限られた土地のもとで、付加価値の高い作物や畜産物を生み出すのが日本農業の強みである。この結果、日本の食料自給率は、カロリーベースで40%、生産額ベースで70%という二極化した姿を見せている。

TPP参加の是非のような論争を教室に持ち込んだ場合、討論は活発になる。こうした授業は、学習者の関心を高めたり、資料を活用できたりという意味で評価される場合が多い。しかし、現実社会には、問題を悩みつつ判断している当事者がいる。学習者が、その当事者と対話しながら問題に気づき、考え続けていく。こうした社会科授業のあり方は、いまだ未解明な点が多い。

今回、私たちは、日本の農業を取り上げ、今後の社会のビジョンを丁寧に考え判断する資質能力を育成する社会科授業のあり方を探ってみたい。日本の農業の何をどう学習者に問いかけ、問題の成立を促すのか。これは、社会科学習において、議論すべき問題を教師がどう定めていくのか、そう定めた理由は何かを明らかにし、その意義を相互に検討することを意味する。現実社会の問題に向き合い、その問題を学習に埋め込む社会科授業のあり方を考えてみたい。

報告者1：社会科における農業学習の歴史的展開と農村の現状

報告者2：経済的な見方からの教材開発とその意義

報告者3：食農教育の視角からの教材開発とその意義

報告者4：状況論的学習観からの教材開発とその意義

佐藤 幸也（宮城学院女子大学）

猪瀬 武則（日本体育大学）

奈須 正裕（上智大学）

関東 明之（山形大学附属中学校）

司会：佐長 健司（佐賀大学） 江間 史明（山形大学）

## 8 課題研究

### I 社会科授業研究における質的研究法を問い合わせる

コーディネータ：鎌田 和宏（帝京大学） 峯 明秀（大阪教育大学）

【趣旨】社会科の授業研究には、質的な授業研究の伝統がある。質的研究とは、「授業の起こっている状況、子どもや教師の発話や行為を精緻にとらえ、その意味を解釈し再構成していくことで授業を理解しようとする」ものである。今日の質的研究からみて社会科の授業研究はどのような特質と課題をもつか、社会科授業研究に対する質的研究の今後の可能性について考えてみたい。

### II 社会科の単元終末における表現と思考を問い合わせる

コーディネータ：梅澤 真一（筑波大学附属小） 宗片 史樹（東根市立第一中）

【趣旨】社会科単元の終末の活動は、単元のまとめとして重要な意味を持つ。学習者がそれまでの学習を振り返ったり、まとめとして、レポートづくりや討論など表現したりする活動で終わることが多い。これら単元終末の活動のあり方は、学習者の思考を深める上でも、言語活動の充実をはかる上でも、教師が評価をする上でも課題となっている。単元終末の活動に焦点をあてて、具体例を元にして、教師の指導と学習者の表現や思考の関連について議論したい。

## III アジアにおける社会的課題の共有と社会科授業開発の可能性

コーディネータ：中山 京子（帝京大学） 森田 真樹（立命館大学）

【趣旨】アジア各国は、国内の社会的課題をどのように確認しようとしているのか。また、各の社会科教育では、その諸課題をどのように取り扱おうとしているのか。そして、アジア諸国が社会科教育のなかで共有され、共通のテーマとして設定可能な社会的課題とは何なのか。急速に変化するアジア諸国における社会科教育の基本情報や最新動向をふまながら、グローバル化や経済状況に伴う問題など、共有される社会的課題を各国の社会科カリキュラムや教科書の分析などを通して、まずは明らかにしていきたい。そして、その社会的課題について、社会科の授業や教材として共有されていく条件や課題を考察しながら、授業化する可能性を検討していきたい。

## IV 社会科を軸に防災の授業をどうつくるか

コーディネータ：篠塚 明彦（弘前大学） 池 俊介（早稲田大学）

【趣旨】小学校では「自然災害の防止」が、中学校にも国土の災害や安全、ESDが導入され、防災の授業づくりが求められている。これを受けて、本課題研究ではこれまでの2年間、教材開発や学校防災計画などとの関係を視野にその教材や方法論について考えてきた。本年も引き続き防災の授業づくりについて教材や方法論を検討するとともに、これまでの成果と課題を考えてみたい。

## V 現場の声から探る社会科の教育実習

コーディネータ：加藤 公明（東京学芸大学） 川崎 誠司（東京学芸大学） 萩木 智志（上越教育大学）

【趣旨】社会科の教員養成にとって教育実習は重要な役割を果たしてきた。しかし、多くの場合、その内容は指導する現場の教員の経験に委ねられてきた。しかも、その指導の内容が公にされ、検討されることはない少なかった。社会科の教育実習はいかにあるべきか。その問題点や課題、発展の方向性を探る。

## 9 参加費等

### (1) 大会参加費

一般会員：3,000円（事前登録） 3,500円（当日登録）

学生・院生会員：2,500円（事前登録） 3,000円（当日登録）

非会員：3,500円（事前登録、当日登録とも）

### (2) 懇親会

会員・非会員によらず事前申込 4,000円 当日申込 4,500円

【振込先】銀行名：三菱東京UFJ銀行 支店名：振込第二支店

口座番号：（普）0725608

口座名：近畿日本ツーリスト株式会社（キンキニッポンツーリストカブシキガイシャ）

## 10 大会参加登録について（締切：9月26日木曜日）

(1) 大会への参加は、学会ホームページの第63回全国研究大会（山形大会）をご確認の上、リンクした業者ホームページからお申し込みください。ホームページをご覧になれない方は、近畿日本ツーリスト東北山形支店（Fax:023-625-7351）にご連絡ください。折り返し連絡します。

(2) 本大会の参加登録事務は、近畿日本ツーリスト東北山形支店に委託しています。

(3) 大会参加費、懇親会費、弁当代の振込期限は、大会参加登録と同じ9月26日です。

(4) 業者ホームページに記入し、送信したら、登録内容についての確認のメールが自動送信されます。内容をご確認ください。

（注）振込が確認できた時点で事前登録完了となります。業者ホームページからの登録を済ませただけでは、事前登録となりませんのでご注意ください。なお、事前登録された方には当日の『大会論文集』を確保します。当日の混雑緩和のため、できる限り事前登録していただくようお願いします。10月11日（金曜日）までの事前申込のキャンセルは、振込手数料を除いて返金しますので、近畿日本ツーリスト東北山形支店にご連絡ください。